

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 8年 1月30日

協議会名: 宮城県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(2事業年度前)(又は類似事業) の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
(株)ミヤコーバス No.1 白石遠刈田線 (白石蔵王駅～メルキュー ル宮城蔵王)	①高校新入生に対するバス 通学の周知 (追加)企画乗車券の販売継続 (追加)一部便での交通系IC 決済の導入	<b>【前回(2事業年度前)の事業評価結果】</b> ・目標を達成した。 ・今後も高校の登下校に合わせたダイヤ 調整及びMMを実施する。 <b>【事業評価結果の反映状況】</b> ・計画への反映の有無:有 ・MMによる利用促進を実施した。 ・インバウンド向け企画乗車券の販売を継続した。 ・インバウンド向けに一部の便で交通系IC カードに対応し、利便性の向上と乗降時 間の短縮を図った。	A 計画通り適切に実施された。  生活利用者を取り込むため のMMについて計画どおり実 施した。また、「蔵王」への観 光の足にも利用される路線 であることから、インバウンド 向け企画乗車券などの利用 促進策も実施し、利用者数 の維持・増加に一定程度の 効果があったと考えられる が、運賃値上げ等の複合的 な要因により輸送量は減少 した。	B 運行回数は計画通り、輸送 人員は前年比減少も、運送 収入は対前年度比増加。 輸送人員:前年比98.4% 運送収入:前年比113.0%  ※白石遠刈田線については IC未導入路線であることか ら、サンプル調査で輸送人員 等を算出しており、調査日の 天候等により年間の数値に 大きな差が生じ得ることに注 意すること。	・今後も通学等のニーズに合 わせたダイヤ調整や学生等 へのMM(バス利用呼びかけ) を行う。 ・インバウンド向け企画乗車 券(TOHOKU HIGHWAY BUS TICKET)を継続実施する。
(株)ミヤコーバス No.2 川崎線 (大河原駅～川崎)	①高校新入生に対するバス 通学の周知 ②利用状況の分析	<b>【前回(2事業年度前)の事業評価結果】</b> ・目標を達成した。 ・今後も高校の登下校に合わせたダイヤ 調整及びMMを実施する。 <b>【事業評価結果の反映状況】</b> ・計画への反映の有無:有 ・MMによる利用促進を実施した。	A 計画通り適切に実施された。  生活利用者を取り込むため のMMについて計画どおり実 施し、利用者数の維持・増加 に一定程度の効果があつた と考えられるが、主な利用層 である沿線高校の生徒数が 減少(R6:227人、R7:192人)し たことなどから輸送人員は減 少した。	B 運行回数は計画通り、輸送 人員は前年比減少も、運送 収入は対前年度比増加。 輸送人員:前年比83.2% 運送収入:前年比104.5%	・今後も通学等のニーズに合 わせたダイヤ調整や学生等 へのMM(バス利用呼びかけ) を行う。 ・乗降データの分析を継続実 施する。

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(2事業年度前)(又は類似事業) の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
(株)ミヤコーバス No.3 川崎線 (大河原駅前～村田営業所)	①高校新入生に対するバス通学の周知 ②利用状況の分析	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 ・目標を達成した。 ・今後も高校の登下校に合わせたダイヤ調整及びMMを実施する。 【事業評価結果の反映状況】 ・計画への反映の有無:有 ・MMによる利用促進を実施した。	計画通り適切に実施された。 A 生活利用者を取り込むためのMMについて計画どおり実施し、利用者数の維持・増加に一定程度の効果があったと考えられるが、主な利用層である沿線高校の生徒数が減少(R6:227人、R7:192人)したことなどから輸送人員は大幅に減少した。	C 運行回数は計画通り、輸送人員は前年比減少も、運送収入は対前年度比増加。 輸送人員:前年比79.2% 運送収入:前年比116.2%	・今後も通学等のニーズに合わせたダイヤ調整や学生等へのMM(バス利用呼びかけ)を行う。 ・乗降データの分析を継続実施する。
(株)ミヤコーバス No.4 利府線 (塩釜営業所～しらかし台)	①高校新入生に対するバス通学の周知 ②利用状況の分析 ③運転免許自主返納に対する割引の検討	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 ・目標を達成した。 ・今後も高校の登下校に合わせたダイヤ調整及びMMを実施する。 【事業評価結果の反映状況】 ・計画への反映の有無:有 ・MMによる利用促進を実施した。	A 計画通り適切に実施された。 生活利用者を取り込むためのMM及び割引制度について計画どおり実施し、利用者数の維持・増加に一定程度の効果があったと考えられるが、運賃値上げ等の複合的な要因により輸送量は減少した。	B 運行回数は計画通り、輸送人員は前年比減少も、運送収入は対前年度比増加。 輸送人員:前年比91.4% 運送収入:前年比113.3%	・今後も通学等のニーズに合わせたダイヤ調整や学生等へのMM(バス利用呼びかけ)を行う。 ・乗降データの分析を継続実施する。 ・割引制度等の利用促進策を継続実施する。 ・利府町版mobiを運行する町との情報連携を引き続き実施し、適切な機能分担により双方の利用者の増加を図る。
(株)ミヤコーバス No.5 ゴルフ場線 (マリンゲート塩釜～千賀の台西)	①JR、住民バス等とのダイヤ調整、広報 ②沿線イベント時のバス利用呼びかけ ③運転免許自主返納に対する割引の検討 (追加)高校新入生に対するバス通学の周知	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 ・目標を達成した。 ・今後も高校の登下校に合わせたダイヤ調整及びMMを実施する。 【事業評価結果の反映状況】 ・計画への反映の有無:有 ・ダイヤの改善及びMMによる利用促進を実施した。	A 計画通り適切に実施された。 生活利用者を取り込むためのダイヤ調整、MM及び割引制度について計画どおり実施し、利用者数の維持・増加に一定程度の効果があったと考えられるが、運賃値上げ等の複合的な要因により輸送量は減少した。	B 運行回数は計画通り、輸送人員は前年比減少も、運送収入は対前年度比増加。 輸送人員:前年比97.5% 運送収入:前年比110.5%	・今後も通学等のニーズに合わせたダイヤ調整や学生等へのMM(バス利用呼びかけ)を行う。 ・割引制度等の利用促進策を継続実施する。

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(2事業年度前)(又は類似事業) の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
(株)ミヤコーバス No.6 汐見台団地線 (多賀城駅前～菖蒲田)	①JR、住民バス等とのダイヤ調整、広報	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 令和7事業年度からの新規路線 【事業評価結果の反映状況】 同上	A 計画通り適切に実施された。  生活利用者を取り込むためのダイヤ調整について計画どおり実施し、利用者数の維持・増加に一定程度の効果があったと考えられるが、運賃値上げ等の複合的な要因により輸送量は減少した。	B 運行回数は計画通り、輸送人員は前年比減少も、運送収入は対前年度比増加。 輸送人員：前年比95.3% 運送収入：前年比115.5%	・今後も通学等のニーズに合わせたダイヤ調整や学生等へのMM(バス利用呼びかけ)を行う。 ・割引制度等の利用促進策を継続実施する。
(株)ミヤコーバス No.7 吉岡線 (泉中央駅～道下)	①高校新入生に対するバス通学の周知 ②通学フリーパスの実施 ③運転免許自主返納者に対する割引の検討	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 ・目標を達成した。 ・今後も高校の登下校に合わせたダイヤ調整及びMMを実施する。 【事業評価結果の反映状況】 ・計画への反映の有無：有 ・MMによる利用促進を実施した。	A 計画通り適切に実施された。  生活利用者を取り込むためのMM及び「せんだいバスFREE+」等の割引制度を実施し利用者が増加した。	A 運行回数は計画通り、輸送人員・運送収入ともに対前年度比増加。 輸送人員：前年比101.3% 運送収入：前年比123.9%	・今後も通学等のニーズに合わせたダイヤ調整や学生等へのMM(バス利用呼びかけ)を行う。 ・「せんだいバスFREE+」を含む各種割引制度等の利用促進策を継続実施する。
(株)ミヤコーバス No.8 色麻線 (古川駅前～色麻町役場)	①高校新入生に対するバス通学の周知 ②沿線イベント時のバス利用呼びかけ ③運転免許自主返納者に対する割引の検討 (追加)通学フリーパスの実施	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 ・主な利用層である高校生の減少等を背景に目標を達成できなかった。 ・今後も高校の登下校に合わせたダイヤ調整及びMMを実施する。 ・利用状況の分析を行う。 ・通期助成の実施など新たな利用促進策の検討する。 【事業評価結果の反映状況】 ・計画への反映の有無：有 ・MMによる利用促進を実施した。 ・令和7年4月から加美町で「通学定期助成制度」を創設した。	A 計画通り適切に実施された。  生活利用者を取り込むためのMM及び「通学定期助成制度」等の割引制度を実施し利用者が増加した。	A 運行回数は計画通り、輸送人員・運送収入ともに対前年度比増加。 輸送人員：前年比104.6% 運送収入：前年比109.5%  ※色麻線についてはIC未導入路線であることから、サンプル調査で輸送人員等を算出しており、調査日の天候等により年間の数値に大きな差が生じ得ることに注意すること。	・今後も通学等のニーズに合わせたダイヤ調整や学生等へのMM(バス利用呼びかけ)を行う。 ・「通学定期助成制度」を含む各種割引制度等の利用促進策を継続実施する。

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(2事業年度前)(又は類似事業) の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
(株)ミヤコーバス No.9 石巻免許センター線 (石巻駅前～日赤病院)	①沿線イベント時のバス利用呼びかけ ②運転免許自主返納者に対する割引の検討	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 ・目標を達成した。 ・今後も自治体と連携した各種取り組みを継続し、バス利用の周知を図る。 【事業評価結果の反映状況】 ・計画への反映の有無:有 ・自治体と連携しMM(公共交通利用促進デー)や各種引制度等を実施した。	A 計画通り適切に実施された。 生活利用者を取り込むためのMM及び割引制度について計画どおり実施し、利用者が増加した。	A 運行回数は計画通り、輸送人員・運送収入ともに対前年度比増加。 輸送人員:前年比105.0% 運送収入:前年比119.5%	・今後も自治体と連携した取り組み等を継続し、収支等改善とバス利用の促進を図る。
(株)ミヤコーバス No.10 河南線 (石巻駅前～河南総合支所)	①沿線イベント時のバス利用呼びかけ ②運転免許自主返納者に対する割引の検討	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 ・主な利用層である高校生の減少等を背景に目標を達成できなかった。 ・今後も自治体と連携した各種取り組みを継続し、バス利用の周知を図る。 ・利用状況の分析を進める。 【事業評価結果の反映状況】 ・計画への反映の有無:有 ・自治体と連携しMM(公共交通利用促進デー)や各種引制度等を実施した。	A 計画通り適切に実施された。 生活利用者を取り込むためのMM及び割引制度について計画どおり実施し、利用者数の維持・増加に一定程度の効果があったと考えられるが、運賃値上げ等の複合的な要因により輸送量は減少した。	B 運行回数は計画通り、輸送人員は前年比減少も、運送収入は対前年度比増加。 輸送人員:前年比95.8% 運送収入:前年比114.6%	・今後も自治体と連携した取り組み等を継続し、収支等改善とバス利用の促進を図る。
(株)ミヤコーバス No.11 石巻専修大学線 (石巻駅前～飯野川)	①沿線イベント時のバス利用呼びかけ ②運転免許自主返納者に対する割引の検討	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 ・目標を達成した。 ・今後も自治体と連携した各種取り組みを継続し、バス利用の周知を図る。 【事業評価結果の反映状況】 ・計画への反映の有無:有 ・自治体と連携しMM(公共交通利用促進デー)や各種引制度等を実施した。	A 計画通り適切に実施された。 生活利用者を取り込むためのMM及び割引制度について計画どおり実施し、利用者数の維持・増加に一定程度の効果があったと考えられるが、輸送量は大幅に減少した。運賃値上げ等の影響や主な利用者である石巻専修大学生の減少についても影響があったものと考えられるが、学生数の減少幅を上回る利用者減になったため、継続して要因分析を実施する。	C 運行回数は計画通り、輸送人員は前年比減少も、運送収入は対前年度比増加。 輸送人員:前年比77.2% 運送収入:前年比120.3%	・今後も自治体と連携した取り組み等を継続し、収支等改善とバス利用の促進を図る。

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(2事業年度前)(又は類似事業) の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
(株)ミヤコーバス No.12 河北線 (石巻あゆみ野駅～飯野川)	①沿線イベント時のバス利用呼びかけ ②運転免許自主返納者に対する割引の検討	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 ・主な利用層である高校生の減少等を背景に目標を達成できなかった。 ・今後も自治体と連携した各種取り組みを継続し、バス利用の周知を図る。 ・今後も高校・大学の登下校に合わせたダイヤ調整及びMMを実施する。 【事業評価結果の反映状況】 ・計画への反映の有無:有 ・自治体と連携しMM(公共交通利用促進デー)や各種引制度等を実施した。	A 計画通り適切に実施された。 生活利用者を取り込むためのMM及び割引制度について計画どおり実施し、利用者が増加した。	A 運行回数は計画通り、輸送人員・運送収入ともに対前年度比増加。 輸送人員:前年比102.6% 運送収入:前年比120.1%	・今後も自治体と連携した取り組み等を継続し、収支等改善とバス利用の促進を図る。
(株)ミヤコーバス No.13 鮎川線 (石巻駅前～鮎川港)	①沿線イベント時のバス利用呼びかけ ②運転免許自主返納者に対する割引の検討	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 ・主な利用層である高校生の減少等を背景に目標を達成できなかった。 ・今後も自治体と連携した各種取り組みを継続し、バス利用の周知を図る。 ・今後も高校・大学の登下校に合わせたダイヤ調整及びMMを実施する。 【事業評価結果の反映状況】 ・計画への反映の有無:有 ・自治体と連携しMM(公共交通利用促進デー)や各種引制度等を実施した。	A 計画通り適切に実施された。 生活利用者を取り込むためのMM及び割引制度について計画どおり実施し、利用者が増加した。	A 運行回数は計画通り、輸送人員・運送収入ともに対前年度比増加。 輸送人員:前年比109.5% 運送収入:前年比118.3%	・今後も自治体と連携した取り組み等を継続し、収支等改善とバス利用の促進を図る。
(株)ミヤコーバス No.14 女川線 (石巻駅前～女川運動公園)	①沿線イベント時のバス利用呼びかけ ②運転免許自主返納者に対する割引の検討	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 ・目標を達成した。 ・今後も自治体と連携した各種取り組みを継続し、バス利用の周知を図る。 【事業評価結果の反映状況】 ・計画への反映の有無:有 ・自治体と連携しMM(公共交通利用促進デー)や各種引制度等を実施した。	A 計画通り適切に実施された。 生活利用者を取り込むためのMM及び割引制度について計画どおり実施し、利用者数の維持・増加に一定程度の効果があったと考えられるが、運賃値上げ等の複合的な要因により輸送量は減少した。	B 運行回数は計画通り、輸送人員は前年比減少も、運送収入は対前年度比増加。 輸送人員:前年比96.0% 運送収入:前年比113.5%	・今後も自治体と連携した取り組み等を継続し、収支等改善とバス利用の促進を図る。 ・乗降データの分析を行う。

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(2事業年度前)(又は類似事業) の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
(株)ミヤコーバス ..... No.15 蛇田線 (いしのまき元気いちば～ あゆみ野駅南)	①沿線イベント時のバス利用呼びかけ ②運転免許自主返納者に対する割引の検討	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 ・目標を達成した。 ・今後も自治体と連携した各種取り組みを継続し、バス利用の周知を図る。 【事業評価結果の反映状況】 ・計画への反映の有無:有 ・自治体と連携しMM(公共交通利用促進デー)や各種引制度等を実施した。	A 計画通り適切に実施された。  生活利用者を取り込むためのMM及び割引制度について計画どおり実施し、利用者が増加した。	A 運行回数は計画通り、輸送人員・運送収入ともに対前年度比増加。 輸送人員:前年比104.2% 運送収入:前年比119.7%	・今後も自治体と連携した取り組み等を継続し、収支等改善とバス利用の促進を図る。
(株)ミヤコーバス ..... No.16 御崎線 (気仙沼市立病院～御崎)	①沿線イベント時のバス利用呼びかけ (追加)デマンド交通との連携	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 ・引き続き、今後の路線のあり方について、関係機関で協議する。 【事業評価結果の反映状況】 ・計画への反映の有無:有 ・オルレを目的とした観光客が当該路線を利用しやすいよう自治体が運行するデマンド交通との連携を図った。	A 計画通り適切に実施された。  生活利用者を取り込むためのMMについて計画どおり実施し、利用者数の維持・増加に一定程度の効果があったと考えられるが、輸送量は大幅に減少した。運賃値上げの影響や同区間を運行するデマンド交通との関連についても考慮しながら、継続して要因分析を実施する。	C 運行回数は計画通り、輸送人員・運送収入ともに対前年度比減少。 輸送人員:前年比65.1% 運送収入:前年比82.4%  ※御崎線についてはIC未導入路線であることから、サンプル調査で輸送人員等を算出しており、調査日の天候等により年間の数値に大きな差が生じ得ることに注意すること。  【参考】気仙沼市で把握している数値については、以下のとおり。今年度の評価についてはミヤコーバスから提出された上記数値に基づき実施する。 輸送人員:前年比93.3% 運送収入:前年比106.2%	・今後も自治体と連携した取り組み等を継続し、収支等改善とバス利用の促進を図る。 ・観光施策との連携(宮城オルレ等)により、利用者の増加を図る。

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(2事業年度前)(又は類似事業) の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
宮城交通(株) ..... No.17 秋保(川崎)線 (仙台駅前～川崎)	①沿線イベント時にバス利用 呼びかけ ②通学フリーパスの実施	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 令和6事業年度からの新規路線 【事業評価結果の反映状況】 同上	A 計画通り適切に実施された。 生活利用者を取り込むため のMM及び「せんだいバス FREE+」等の割引制度につ いて計画どおり実施し、利用 者が増加した。 また、秋保地区の宿泊者数 が前年比で9.9%増加 (R6/R5)したことも、バス利 用者の増加を牽引したと考 えられる。	A 運行回数は計画通り、輸送 人員・運送収入ともに対前年 度比増加。 輸送人員:前年比111.0% 運送収入:前年比141.9%	・今後も自治体と連携した取 り組み等を継続し、収支等改 善とバス利用の促進を図る。 ・観光施策との連携(企画乗 車券の継続等)により、利用 者の増加を図る。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月30日

協議会名：	宮城県地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域公共交通確保維持事業
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>地域間幹線系統については、通学・通勤・通院等の地域経済活動に必要な移動手段として、重要な役割を果たしている。</p> <p>一方で、モータリゼーションの進展や人口減少等を背景に、利用者数の減少や運転士不足といった地域間幹線系統を取り巻く社会環境は増々厳しいものになっており、既にバス事業者の自助努力だけでは路線の維持が困難な状況にある。</p> <p>このため、地域間幹線系統を維持するためには、当事業における公的支援は必要不可欠であり、引き続き「まちづくり」という観点から事業者だけでなく沿線自治体と共に、他の広域交通や幹線系統に接続されるフィーダー交通等との連携を図りながら、サービス供給体制の安定化に向けて取組を推進していく必要がある。</p>